

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(経済産業部)

事業	7	事業名	働いてよし新卒者就職応援事業費
----	---	-----	-----------------

1 基本情報

実施日／班名	9月6日 第3班	時間	13:00~14:14
担当課名	雇用推進課	事業費	15,610 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	2
			一定の効果がある	22
			あまり効果がない	8

3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> ・U・Iターン就職活動を4月から始める意味は重要ではないか。 ・何をやるにしても、目的を持ってその事業を行うのか、ポイントをより具体的に絞っていく大切さを感じた。目的が不明確なものはやめて他に予算を回すことが必要。ただし、とりあえずやってから効果について考察することも必要。最初にやる場合は分からないことが多すぎる。 ・都心の大企業と戦うというより、静岡のよさを全面に出した事業になっていくことを願う。 ・他の事業と重なっている。内容的にも新卒者応援ではなく、中小企業への就職支援という形なら効果が出るのではないか。趣旨が違う気がする。 ・目的が明確ではない。内定を主にするなら、早い段階で説明会を設けて、人数を確保すべき。逆に県内の企業と学生とのミスマッチの解消を主にするなら、大手志向の学生に対して働きかけをして、企業のアピールタイムを増やして県内に囲むようにするとよい。 ・施策ごとの効果を計量しておらず、PDCAが回せていないため、単なる前年度からの継続率が概ねと判断せざるを得ない。少なくとも過年度の計実比較は示すべき。 ・県があえて実施している理由を、県自身がロジカルに説明できていない(棲み分けをすれば意義があるが)。目的がばらつく(県が理解できていない)のであれば、一旦止めてみてはどうか。 ・学校ではよく分からない中小企業への就職支援に予算を使うよりも、その予算で大学と学生の負担を減らして企業での体験を授業として取り入れるなど、若年層から社会になじませておけば、就職に関心が高まるため、この事業の効果が向上する。しかし、議論でうやむやな部分をしっかり定着させていないと、効果を出す前に逆効果になってしまう。
-------	--

対象・範囲

- ・学生の求めている職種に合わせた情報発信も大切である。
- ・県の事業は差別があってはならない。特に弱者（中小企業）救済の立場に立って考えてほしい。
- ・民間と同じことではなく、県が実施する意味をもってやっているのだから、民間と比べてセールスポイントのある面接会になるといい。民間と重なる同じことなら民間に任せればよい。
- ・基本的に静岡県がすべきことは、内定を求める学生に対して中小企業の良さをよく知ってもらえるように広報活動を行うことである。大企業はそれだけで人を引きつけることができるため、もっと中小企業の良さをアピールして、大企業と中小企業に流れる優秀な人材の偏りを是正した方がよい。そうすることによって、中小企業の発展にもつながり、県全体の景気もよくなる。
- ・各事業ともに目的・ターゲットを明確にする必要がある。
- ・就職説明会に企業側の出費はないのなら、もっと中小企業の参加を促すほうがよい。
- ・U・Iターン就職フェアの参加企業として、もっといろいろな中小企業が参加すれば、学生の選択肢が増えるのではないかな。
- ・U・Iターンフェアは効果的だとは思いますが、参加企業が名の知れた企業ということで、一人でも多く県内に就職してほしいのであれば、やはり中小企業の参加を促すべきだと思う。人材が不足している企業の支援をこの事業の目的とするならば、マイナビ等に入れない（お金がない）企業を県が支援すべきである。ミスマッチの解消を重点に置くのか、人材確保を重点に置くのか別に分けて考えたほうがいいのではないかな。
- ・中小企業の良いところを知ってもらうためにも、中小企業の方の参加を促したらどうか。
- ・PR媒体（パンフレット、本等）を、対象学生の親の実家へ送付する等、本人だけでなく家族へ情報提供してはどうか。
- ・ターゲットを、中小企業とするならば、展示ツールの補助等を行うことはどうか。
- ・県内に残っている学生の親を使ったアピール方法を取り入れてもよいのでは。

事業内容

- ・県内就職率を上げるために県内企業と大企業を比較できるよう、早めから県も関わりを提示していくのか、民間委託でよいのか、考えてみてもよいのではないかな。
- ・県内・首都圏と並行して就職活動をすすめている学生が65%あるならば、早いうちから県内の中小企業の魅力を発信していけば、学生の中でも興味や選択の場が増えていくのではないかな。
- ・県と市町との共同の事業として実施することで効果が上がるのではないかな。
- ・U・Iターン就職がなぜできないのか、その理由をしっかりと調査して、県内で就職するメリットをもっと知らせるべき。
- ・就職説明会などへの参加が大学の単位になるような、大学の学習と連携したものにしていくのはどうか。ただ単に事業を続けていくだけでなく、参加する人をどう増やしていくのかがポイントです。逆に考えると、これ以上お金をかけても必要としない人がいるということになってしまうかもしれませんが。
- ・ミスマッチの解消には、ライフプランを前提にキャリアプランを提示、あるいは生き方まで含めて説明する必要がある。そこまでこの事業で説明していますか。
- ・中小企業の場合には、その会社の良さを伝えることが難しい部分もあるのではないかな。企業と学生がより交流の場を持てる企画を検討する必要がある。
- ・内定率の向上、U・Iターンの向上を図るには、やはり大企業の影響が大きい。それらの大企業の事業を知ることで、中小企業の魅力も伝えられないかな。
- ・ワークラリーは直接目にすることで現実的になる。このような企画は県内・県外の学生に対してたくさん行ってほしい。
- ・ホームページでの発信は良いが、一定期間ではなく常時出してほしい。イベント等費用が出せない中小企業にとっては早い時期のほうがいいのではないかな。

事業内容

- ・ U・I ターン就職フェアなどで、県内市町の良さをもっとアピールすべき。「オラが町は素敵だ、帰ろう」となることが大事。企業第一ではなく、故郷第一と考えたい。
- ・ 東京におけるサポートセンターの充実をお願いする。
- ・ 中小企業を焦点に当てたとき、もっと県内のアピールをすべき。県の行政として、県内で働くメリットを伝えて、企業側は各々自社の技術力アピールをする場にするとUターン率も高まる。・ 年々県外者のUターン数は減少しており、取組として効果があるとは言えない。頻度、内容ともに検証が必要(必要性は理解するもの方法論に余地あり)。
- ・ 企業の人材育成方式も学生側へPRし、将来設計への希望、意欲、就労に反映できないか。
- ・ 委託先をコンペ方式にする等、リアルタイムに課題を狙い撃ちした内容としてはどうか。(マスをターゲットとした方法ばかりになり、ミスマッチに対応できるきめ細やかさが感じられない)
- ・ 社会人としての人材の層が厚くなることは、県としても重要である。人として育つのは、社会で活動しながら身につく事が多々あり、企業側の教育体系等への補助も必要ではないだろうか。
- ・ 優秀な人材ではなく、その企業の仕事に適した人材(適材適所)を県が応援・フォローすることで、個々のやりがいへつなげる。
- ・ 県職員が学校に行って、学生の考え方を聞いて施策に反映したらいい。(学生は何でもやってもらえると思ったら間違い)
- ・ 大学生の就職活動が大学3年時から始まるなら、「大卒等就職面接会」等を民間の説明会と並行して、大企業関連の中小企業も含めて行ってはどうか。
- ・ 県外の大学進学者が県内高校卒の70%あるので、中小企業を含め、首都圏に一層力を入れて行くことが大事である。(静岡県の魅力を更に発信してほしい)
- ・ スタート時期を早めて、県外の学生にも情報提供すべき。
- ・ 目星しい大企業と中小企業をセットにして集客数を増やすべき。
- ・ 9回開催している内、1月頃1回、7月3回、12月2回とし、1月より前にアピールを大いにすべき。12月は回数を減らしても就職が決まっていない人たちが対象なのだから、必死に参加するのは。学生の現状(意識)を調査しているのか、あまりにも現実と離れている頭でっかちな事業だと感じた。
- ・ U・I ターン就職フェアの開催について、もっと早くからアピールするべき。
- ・ 専門委員の方が言っていたように、10月に内定をもらっていない学生を対象に就職面接会をしてもミスマッチが増えていく。
- ・ 必要性は極めて高いが、今の事業配分では効果が期待できない、方法を転換すべきだ。①対象者は県内大学7,000人、県外大学12,600人なのに対し、県内大学者に1,200万円、県外大学者に300万円の予算配分では偏りすぎでないか。②困っている中小企業を中心に、民間より早目に就職応援セミナーをやるべき(民業圧迫だと言われてもひるんではいけない)③内定率をあげることでではなく、ミスマッチを減らすことだ。
- ・ 就職面接会で、求人のある介護・看護を分けることもいいけれど、求人の少ない文系などを補うものも欲しい。就職面接会の回数もそうだが、質を良くするという事もあるのでは。
- ・ U・I ターン就職フェアは効果があると思う。しかし、御意見にもあったように、中小企業もあるとよいと感じた。県外大学生なら尚更。県内大学3年生にも何かイベントを開催してくださいと嬉しい。(就活が始まる前だからこそ、内定に繋がるのでは)
- ・ 中小企業の各々が強みをアピールできる場を提供するのは良いと思う。しかし、効果が不透明で判断できない。情報交換会の実績を明確にできれば、学生も興味を持ってくれるかもしれない。
- ・ 学生たちに中小企業をPRするには、中小企業の方々が実際に学生に向けて自社のPRをしてもらうのが1番だと思うが、話に出ていたとおり学生の就職に対するブランド志向から考えると、名前の知らない企業だけが参加する事業だと学生が集まらない。参加する企業の大・中・小の割合はよく考察する必要があるのではないか。

事業内容

- もっと認知度を高めて、セミナーや面接会に来訪する人を増やす必要がある。事実、少しずつ内定率上昇に貢献している活動なので、ずっと継続して広めていくことで、より大きな事業になり、より意味のある政策になるのではないかと。もしセミナーなどで人が集まらないのなら、事前予約制にしていけばいいのではないかと。そうすれば、予約されない企業は仕事が忙しければ無理にセミナーに出る必要はないし、学生も目的の企業との話が必ず聞けるのでよい。大学とも連携して、セミナーをやる前に WEB 上や紙面で各企業の PR をしてまずは学生に興味を持ってもらうことも大切なのでは。
- 県が行うセミナー等は、7月から始まっているが、会社説明会等が解禁する3月から行い、まだ内定を出していない会社が多いときにもやっていくべき。
- U・Iターン就職に関心を持ってもらうためには、開催日数も増やし、県外に出た学生に県内の良さや県内企業 PR をしたほうが、より効果が上がってくる。
- 話を聞いていると、中小企業と大企業の扱いが平等ではない。本当に中小企業を学生に知ってもらいたいのなら、翌年度の事業には改善が必要である。県はもっと中小企業に対して積極的にアプローチをして連携していくべきであり、大企業ばかりを優遇して紹介することは事業自体の目的が異なってくると感じた。またこういった事業を通して、効果の度合いを慎重に検証していくべきと考える。
- 大学と企業とのマッチングとあるが、企業側にとって「残っている学生」というイメージを取られてしまいそうだと感じた。学生の中には中小企業に魅力を感じて事業に参加している人もいるはず。県外にいる学生に県内で就職してもらうには、県外の学生の声を聞いていった方がいい。
- アンケート結果で決め手になった理由の所に仕事内容の次に地域というのが凄く高い数値で出ている。それを見て改めて思ったのが、この就職面接会においても、やはり早い時期に1回企業の方と会うという所まではいかななくても、周知をしてほしい。情報提供だけはしてほしい。
- 高校生までは静岡県にいても、大学のとき関東に出れば、企業との接点は全然ない。なので、どういう企業があるのかというのを周知、お知らせしてほしい。また、県外に学生が出ているとき、県内に親御さんは残っていると思う。親御さんに対してのアピールもされていたほうが効果的ではないか。

(2)その他の意見

- 就職面接会を通して、どれだけ県内に就職できたのか効果を知りたい。
- 雇用促進のための施策にどんなものがあるのかよく分かった。
- 紹介された施策がもし無ければ、各インデックスはおそらく下がる。結果に定量性がなく判断が難しい。
- 建設や医療といった業種におけるミスマッチの壁とは何か。
- 内容としてどのようなことをしているのか分からないが、都心に出た学生としてはとてもありがたい事業です。
- 就職説明会に参加するのに意味があるようで、具体的なものはあまり見えていない。
- やはり大学生は優遇されていると感じた。
- 県の説明は、細かな実績（こんなことやりました）を説明するばかりで、効果、アウトカムへの寄与か説明されなかった。小柱レベルの目的に対して、説明の目線が全く一致しておらず、かつ裏付けが乏しいため、説明になっていない。戦略レベルの狙いどころは素晴らしいのだが、アクションレベルの話と連動していないのが残念、かんばっていただきたい。
- 雇用促進のために、学生側の就労支援のみでは片手落ちではないか。
- 就職内定を得られない者に対する救済支援ではあるが、一定の効果はある。
- 予算の支出の是非については、資料不足で分からない。
- 評価者にも意見を言う場面がもっとほしい。
- U・Iターン就職フェアについては初年度だったというが、予算を使う上での計画が甘いのでは。

- ・ U・I ターン就職フェアの 26 年度と 25 年度の開催日が大きく違うのは意味があるのか。
- ・ 今後の進め方に工夫が必要。
- ・ 企業にお金を払って来ていただくというような発言が多かったが、それは環境大臣が言った「要は金目でしょ」発言に近い感がして、反感を生んでしまうので控えたほうがいい。
- ・ 私は 10 何年か前に就職活動をして、関東の大学だったので一時期静岡県での就職も念頭に置いて、就職活動をしていました。今日、話を聞いていて、県にはもっと自信を持って県の中小企業を薦めてほしいというのが第一印象です。
- ・ 先ほど学生が話していたが、年配の方にはわからないかもしれない。エントリーシートの記入というのは、私が 10 何年前にやったときも凄く大変であった。1 枚のエントリーシートを書くのに、何日も内容を考えて、その内容もあなたが学生時代に行ったとって嬉しいと感じたエピソードを書いてください。その内容を何文字以内でという項目が何個もある。学生時代の 4 年間で振り返って、3 年のときに就活を始めたので 3 年間だが、その中から一番いいエピソードを思い出す。それを文章にして企業の人にアピールするのが、1 つの項目でそれが何個もある。そういうのを企業によって出す内容も違う。本当に何日もかかる。就職活動をやる間で、大学の授業も受けて、エントリーシートも準備して、そしてこの 3 年生の何月からかスタートしていたら、大企業で手一杯になる。静岡で就職したいと思っけていても、情報もないのでどんな企業もあるのかわからない。
- ・ 私はもう 20 年前に就職活動をしたが、そのときと比べても、企業も多様化、複雑になっている。プロセスも面倒くさいことになっている。今、企業にいる立場から見てもそう思う。かつ、競争も激化している。本当に 1 社 1 社に対して、真剣勝負でもの凄いエネルギーを使われて、今就職活動をされているのを実感している。先ほどの議論にあったが、学生が情けないと言ったら簡単でそこで問題は終わり。今の若い人の立場に立って、いろいろ考えてほしい。昔と状況は違う。ということをも真ん中の世代の私からも言いたい。
- ・ 本件については、やり取りを聞いて勉強になった。専門委員の話にあったが、施策のターゲットが非常にぼけているので、議論がかみ合っていない。県の説明と専門委員の指摘の掛け合いがかみ合っていない。よく分からなかったのが正直な感想。本来、大柱の戦略レベルの話ではなくて、今は事業レベル・アクションレベルの話をしているので、本来目的が絞られていて、それに対しての打ち手の話なので、本来目的が説明できてしかるべき。それが、戦略レベルの目的に対して、いろいろ効果を論じているので、かみ合わない。本来はもっと絞って、やっていくべきではないか。やっている内容は、方向性は凄く必要な施策だと思う。だが、やり方の問題がかなりある。効果検証もできていないので、PDCAが回っていない。長年続いたことをずっとそのままやっているという感がぬぐえない。雇用のミスマッチという問題が出てきたのは、ほんの 2、3 年だと思う。近年出てきた問題に的確に対応できるようなやり方の見直しをやっていないのではないか。
- ・ 1 つ質問がある。静岡新聞社に委託されていることで、これは何を委託されていて、どういう形で、要は随意契約で毎年やられているのか、ある程度競争性を持って、毎年方法論の見直しができるような形でやっているのか。